

令和3年度(2021年度)
地域運動部活動推進事業(国庫補助事業)
成果報告書



Nankan Toppa-maru playing Goalball

なんかん トツパ☆丸

熊本県
南関町教育委員会

目次

第1章 南関町（拠点地域）

I	南関町の概要情報	
1	熊本県南関町の概要	2
2	学校の現状	2
II	スポーツ環境における特徴	
1	スポーツ指導者の状況	2
2	スポーツ施設	3
3	地域スポーツクラブと体育協会	5
III	地域移行に向けて	
1	目指す姿・ゴール	5
2	直面している課題及び方向性	5

第2章 南関中学校（拠点校区）

I	基礎情報	
1	南関中学校の概要	6
2	部活動の概要	6
II	実践研究内容	
1	実践課題	7
2	運営体制	14
3	指導体制	14
4	活動場所	15
III	実践研究の成果	
1	成果(アンケート結果)	16
2	横展開しうるノウハウ等	30
3	実践研究の結果判明した課題	30
IV	地域移行を推進するための方策等	
1	関係団体との円滑な地域移行推進体制への方策	33
2	拠点校の取組や関係団体の協働を効果的に促進する支援策	33
3	課題の克服策	33
4	円滑な他地域への普及策	33
5	実践研究における活動実績や得られたデータ	33

第1章 南 関 町 (拠点地域)

I 南関町の概要情報

1 熊本県南関町の概要

熊本県の西北端に位置する。南北に約 11 km・東西には約 10 kmの総面積 68.92 km²で、令和 4 年（2022 年）1 月末の人口は 9,184 人、人口密度は 133.3 人/km²である。

町のキャッチフレーズ「緑にいきづく関所の里」は、昔は関所が置かれていたことから、今は九州自動車道の南関インターチェンジを有し、県北の玄関口として「今も昔も交通の要衝」として位置づけられる。

2 学校の現状

本町には、4 つの小学校と 1 つの中学校がある。令和 3 年度児童生徒の合計は 577 人で、10 年前（平成 23 年度）と比べると、194 人減少。少子化が進んでいることを物語っている。

■小中学校の児童生徒数の推移 (単位：人)

年度	一小	二小	三小	四小	小学計	南関中	小中合計
平成 23	1 6 3	1 0 6	1 3 0	9 6	4 9 5	2 7 6	7 7 1
平成 24	1 4 8	9 8	1 3 1	8 0	4 5 7	2 5 6	7 1 3
平成 25	1 4 4	9 6	1 2 2	7 5	4 3 7	2 5 5	6 9 2
平成 26	1 3 3	9 3	1 1 0	7 3	4 0 9	2 5 9	6 6 8
平成 27	1 4 1	8 9	1 0 5	6 9	4 0 4	2 5 3	6 5 7
平成 28	1 3 3	9 3	1 0 0	7 1	3 9 7	2 2 6	6 2 3
平成 29	1 3 8	9 0	1 0 4	5 8	3 9 0	2 0 8	5 9 8
平成 30	1 4 7	8 4	1 0 5	6 6	4 0 2	1 8 9	5 9 1
令和元	1 4 7	8 8	1 0 7	7 2	4 1 4	1 7 8	5 9 2
令和 2	1 4 4	8 6	1 0 9	7 6	4 1 5	1 7 0	5 8 5
令和 3	1 3 1	7 7	1 0 9	8 3	4 0 0	1 7 7	5 7 7

II スポーツ環境における特徴

1 スポーツ指導者の状況

(1) 南関町スポーツ推進委員

平成 23 年 6 月にスポーツ基本法制定により「体育指導委員」という名称が「スポーツ推進委員」へと変更された。これに伴い、スポーツ推進委員の役割も、地域におけるスポーツ振興の牽引者から、スポーツ活動や地域振興のコーディネーターへと変わった。このため、スポーツ推進委員の資質向上はもとより、新たに課せられた任務を理解・推進していくことが大切である。

現在 9 人（定員 12 人）のスポーツ推進委員が町から委嘱を受け、スポーツ推進のための様々な活動に取り組んでいる。

(2) 総合型地域スポーツクラブ (NPO法人A-life なんかん)

総合型地域スポーツクラブ (NPO法人A-life なんかん) は、指導者の育成、派遣等を実施している。現在 39 種目へ派遣している。詳細は、「3 地域スポーツクラブ」に記す。

2 スポーツ施設

(1) スポーツ施設の状況

本町の施設は、下表のとおりで、老朽化が進んでいるものもある。平成になってからの改修では、テニスコート及び農村広場グラウンドの全面改修、ウォーキングコースの新設、B & G海洋センターのプール全面改修、同屋根改修を行った。

近年の利用状況は、団体利用は減少傾向で、個人やニュースポーツは、増加傾向である。

■施設等の状況

施設	農村広場	B & G海洋センター	ふれあい広場
敷地面積	44,222 m ²	11,438.64 m ²	11,762.62 m ²
概要	野球場(1面) ソフトボール場(1面) テニスコート(4面) 多目的広場、弓道場 ウォーキングコース (500m)	第一体育館 第二体育館 プール (25m、体力増進用) 艇庫(カヌー9艇)	芝生広場 ジョギングコース アリーナ わんぱくランド ウッディアリーナ 憩いの間

■施設の利用状況

施設	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
農村広場グラウンド	17,464	17,568	18,027	6,703	4,143
テニスコート	8,727	8,679	9,251	8,502	6,478
弓道場	7	0	0	0	0
ウォーキングコース	9,165	9,379	10,185	10,977	11,020
B & G海洋センター (第一体育館)	11,455	14,016	11,835	9,472	6,717
B & G海洋センター (第二体育館)	2,066	3,119	2,069	2,647	2,657
プール (25m、体力増進用)	6,595	6,732	6,000	4,778	1,012
大津山グラウンド	1,920	2,273	1,720	818	165
ふれあい広場 (芝生広場)	5,676	5,448	5,972	4,495	4,105
ふれあい広場 (ジョギングコース)	2,174	1,716	1,826	1,283	1,401
ウッディアリーナ	2,613	3,597	3,716	2,996	1,333
わんぱくランド	1,807	1,766	1,176	1,643	575
憩いの間	800	851	833	729	321

(2) 学校体育施設の状況

学校施設は、地域住民へ4小学校と1中学校の5体育館を開放している。利用状況は、第二・第三・第四小学校は増加しているが、第一小学校・中学校は、減少傾向にある。

■施設面積等の状況

学校名	グラウンド(m ²)	体育館(m ²)
南関第一小学校	5,959	908
南関第二小学校	6,025	1,069
南関第三小学校	9,898	789
南関第四小学校	5,809	779
南関中学校	23,983	1,811

■施設の利用状況

学校名	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
南関第一小学校	2,055	1,875	1,816	1,908	467
南関第二小学校	235	645	880	810	120
南関第三小学校	1,249	1,503	1,930	2,677	508
南関第四小学校	1,453	2,758	2,898	2,205	433
南関中学校	11,934	7,615	5,890	6,168	985
合計	16,926	14,396	13,414	13,768	2,513

(3) 学校部活動による使用状況

種 目	利用施設
軟式野球	南関中学校グラウンド(野球場)
陸上競技	南関中学校グラウンド(トラック)
ソフトテニス	農村広場テニスコート※
バドミントン	南関中学校体育館(2階)
バレーボール	南関中学校体育館(2階)
バスケットボール	南関中学校体育館(2階)
卓球	南関中学校体育館(1階)
美術	南関中学校美術室
吹奏楽	南関中学校音楽室

※ソフトテニス部は、500mほど離れた場所にある、町の施設(農村広場)を利用しており、生徒は自転車で移動している。利用料は、減免措置をとっている。

3 地域スポーツクラブと体育協会

(1) 総合型地域スポーツクラブ（NPO法人A-life なんかん）

本町では、楽しみのスポーツと競技スポーツを推進し、子どもから高齢者まで、様々なスポーツをそれぞれの志向・能力に合わせて参加できる仕組みを確立させた。平成24年7月には、南関すこやかスポーツクラブと南関町体育協会が合併し「NPO法人A-life なんかん」が誕生した。

「NPO法人A-life なんかん」は、子どもの健全育成、生涯スポーツの推進、競技スポーツの推進、地域コミュニティの活性化などを目標に、スポーツにおける好循環を目指している。令和3年12月現在の会員数は、579名である。

概 要
■会員数 H17年度(289名)、H18年度(392名)、H19年度(357名)、H20年度(317名) H21年度(399名)、H22年度(427名)、H23年度(452名)、H24年度(672名) H25年度(673名)、H26年度(700名)、H27年度(663名)、H28年度(658名) H29年度(659名)、H30年度(665名)、R元年度(684名)、R2年度(611名) R3年度(579名)
■種目（39種目） ＜競技部＞ バドミントン、バスケットボール、卓球、ソフトテニス、ボウリング、軟式野球、バレーボール ＜一般種目＞ 山登り、芦原空手、陸上、卓球、剣道、野球（Jr.）、ソフトテニス（Jr.）、ビーチボールバレー、ヘルスアップ、ソフトテニス（一般）、硬式テニス、タグラグビー、柔道、ソフトバレーボール、日本拳法、卓球愛好会、スイムレッスン（夏期）、和良久、バレーボール（Jr.）、バスケットボール（Jr.）、バドミントン（Jr.）、筋トレサークル ＜特別教室＞ YOGA、Punch&Kickエクササイズ、太極柔力球、体育教室、幼児体育教室、茶道

(2) 部活動との連携状況

南関中学校とNPO法人A-life なんかんが連携し、バレーボール部、バドミントン部、卓球部、ソフトテニス部、バスケットボール部が活動している。今後、中学校部活動の地域移行が進むことで、さらにほかの種目での連携が必要となるであろう。

Ⅲ 地域移行に向けて

1 目指す姿・ゴール

中学校部活動を地域移行することで、学校の働き方改革を進め、教員が本来携わるべき業務に専念できる環境を整え、教育の質の向上を目指す。また、NPO法人A-life なんかんと連携し、生徒にとって充実したスポーツ環境を提供することをゴールとする。

2 直面している課題および方向性

令和3年度と平成4年度を比較した場合、少子化が進行し、生徒数は約50%減り、学級数や教員数も減少している。その中で、部活動数は運動部8部、文化部2部と変わっていない。部活動数に変動がないので、少なくなった教職員が補わなければならない、負担は増加している。

今後の方向性として、適正な部活動の数となるように検討しなければならない。また、実践研究の結果、判明した課題については、後の「実践研究の結果判明した課題」に記述する。

第2章 南 関 中 学 校 (拠点校)

I 基礎情報

1 南関中学校の概要

(1) 校区の概要

本町（中学校1校）は旧南関町、賢木村、大原村、坂下村、米富村（一部）の5ヵ町村が合併し、昭和30年に発足した。地理的状況から町民の生活文化圏は広く、玉名市、荒尾市、山鹿市、福岡県大牟田市等もその圏内である。

本校は、昭和61年4月に南関町立南関北中学校、同南関南中学校が統合して発足し、通学距離の均衡から、町中央の現在地に建設された。校区が町内全域であるため、通学距離が長い生徒が多く、大部分が自転車で通学している。

(2) 学校の沿革

生徒数は、平成4年度が最も多く、学級数14、生徒数490人、教員28人であった。令和3年度は、177人で8学級、教員数26人となっている。

2 部活動の概要

(1) 部活動数、種類、部員数について

本校では、令和3年12月現在、7つの運動部活動に113人が入部している。また、文化部活動には18人が加入し、部活動全体の加入率は72%である。

■部活動別加入状況

部活動名	1年		2年		3年		計
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
軟式野球	9	0	1	0	5	0	15
陸上競技	10	1	3	4	2	5	25
ソフトテニス	0	5	0	4	0	4	13
バドミントン	7	4	7	2	4	0	24
バレーボール	0	4	0	4	0	3	11
バスケットボール	0	4	0	4	0	3	11
卓球	3	1	8	1	1	0	14
柔道	0	0	0	0	0	0	0
美術	1	0	0	3	0	2	6
吹奏楽	0	4	0	2	0	6	12
男女計	30	23	19	24	12	23	131
合計	53		43		35		131

(2) 部費について

- ① 学校は、1,200円を「部活動振興会費」として、生徒一人あたり徴収している。
- ② 町は、年間900,000円を部活動補助金として、学校へ補助している。
- ③ 学校は、活動費として720円を部員1人当たり活動費として支給している。

(3) 活動頻度について

① 練習日

ア 1週間の練習日は、5日以内とし、平日1日以上、週末（土曜日及び日曜日）1日以上の計2日以上を休養日とする。また、毎月第1日曜日は完全休養日とする。

イ 土曜日、日曜日、祝日に活動する必要がある場合は、生徒のバランスのとれた生活や成長からみて無理のない範囲で活動し、休養日を他の日に振り替えるなど適切に休養日を確保する。

ウ 長期休業中は、その意義を踏まえ、ある程度長期の休養期間（オフシーズン）を設け、生徒に十分な休養を与える。

エ 定期試験前後の一定期間等、学校全体で定められた共通の休養日又は活動時間の制限については、その意義を踏まえ、確実に実施する。

② 練習時間

ア 平日の練習時間は、長くとも2時間程度とする。

イ 土曜日、日曜日、祝日、長期休業日の練習時間は、長くとも3時間程度とする。

II 実践研究内容

1 実践課題

(1) 取り組んでいる実践課題

① 中学校部活動検討委員会の開催

ア 地域部活動種目及び指導者の選定

イ 教諭、指導者、保護者、生徒への調査内容の検討並びに調査後の検証

ウ 事故が発生した場合の対応や責任体制等についての検討

② 地域部活動指導者会議の開催

ア 平日運動部活動と地域部活動の具体的な指導内容や方法の統一、生徒の状況共有

イ 部活実施の日程調整(練習期日、時間、大会等)

ウ 進捗状況について

エ 大会の引率等についての課題及び改善策の検討

③ 地域部活動指導者の派遣

ア 陸上部およびバレーボール部において、地域部活動指導者を派遣

④ 研修会の開催

ア 適切な指導に必要な人材研修の開催

イ スポーツ指導者認定制度に係る研修の開催

⑤ 広報啓発

ア 地域部活動移行についての内容や地域指導者募集について町民に周知

⑥ 保護者への説明会開催

ア 地域部活動の内容及び休日の活動について費用が必要になること等の説明

⑦ アンケート調査の実施

ア 教員、地域指導者、生徒、保護者のそれぞれの立場から現行の運動部活動の課題意識を調査・分析する。

(2) 取り組んだ背景・理由

部活動への対応が一因となり、教員の負担が増加し、学校の働き方改革への対応が求められている背景がある中で、上述の①～⑦の実践課題に向き合い、事業を実施す

ることで、課題解決の道筋を示すため。

(3) 取組概要

■取組に対する年間事業実績表

期日	時間	内 容
4月16日	14時30分～	保護者向け事業説明会（南関中PTA総会）
4月27日	18時00分～	第1回南関中学校部活動指導者会議
5月25日	10時00分～	第1回南関町中学校部活動検討委員会
6月1日	14時00分～	第1回熊本県地域部活動検討委員会
6月		部活動アンケート調査（生徒、教職員、指導者対象）
6月29日	18時00分～	第2回南関中学校部活動指導者会議
7月16日	18時30分～	吹奏楽部保護者会向け事業説明会
8月1日	8時30分～	社会を明るくする運動（吹奏楽部演）
8月24日	10時00分～	第2回南関町中学校部活動検討委員会
8月31日	18時00分～	第3回南関中学校部活動指導者会議
9月上旬		広報・啓発（町広報誌での周知）
10月22日	15時30分～	適切な指導に必要な人材研修
10月26日	18時00分～	第4回南関中学校部活動指導者会議
11月		部活動についてアンケート調査（保護者対象）
12月21日	18時00分～	第5回南関中学校部活動指導者会議
12月22日	14時00分～	第3回南関町中学校部活動検討委員会
12月25日	9時00分～	南関中学校部活動の視察
1月26日	15時30分～	南関町における地域部活動推進研修（南関中学校）
2月14日	18時00分～	第6回南関中学校部活動指導者会議
2月16日	14時00分～	第4回南関町中学校部活動検討委員会
2月26日		本事業の成果報告書提出期限
2月28日		本事業の契約期間満了日

① 中学校部活動検討委員会の開催

ア メンバー（検討委員）

NO.	所属・役職
1	教育委員会（教育長）
2	スポーツ推進委員（スポーツ推進委員会代表）
3	地域スポーツ団体関係者（NPO法人A-l i f eなんかん理事長）
4	地域スポーツ団体関係者（NPO法人A-l i f eなんかん事務局長）
5	文化協会関係者（南関町文化協会会長）
6	学校教育関係者（南関中学校校長）
7	学校教育関係者（南関中学校体育主任）
8	学識経験者（久留米大学人間健康学部准教授）
9	事務局（教育課長）
10	事務局（教育課課長補佐）
11	事務局（教育課学校教育係長）
12	事務局（教育課生涯学習係長）
13	事務局（教育課生涯学習係主査）

イ 南関町中学校部活動検討委員会の概要

■第1回検討委員会

日時 令和3年5月25日（火）午前10時00分

場所 南関町公民館 視聴覚室

- 議題
- (1) 事業説明について
 - (2) 今後の取組について
 - ① 指導種目および指導者の選定について
 - ② 事業評価基準について
 - ③ 課題等について
 - (3) アンケート内容（案）について

■第2回検討委員会

日時 令和3年8月24日（火）午前10時00分

場所 南関町公民館 視聴覚室

- 議題
- (1) 事業の進捗状況について
 - (2) 研修会の開催について
 - (3) アンケート結果について（教員、生徒、指導者）

■第3回検討委員会

日時 令和3年12月22日（水）午後2時00分

場所 南関町公民館 視聴覚室

- 議題
- (1) 事業の進捗状況について
 - (2) 研修会の開催について
 - (3) アンケート結果について（保護者）

■第4回検討委員会

日時 令和4年2月17日（木）午後2時00分

場所 南関町役場庁議室

- 議題
- (1) 研修会の報告について
 - (2) 成果報告書の提出について
 - (3) 令和4年度の取組について



② 地域部活動指導者会議の開催

ア メンバー（会議参加者）

NO.	所 属	職 名
1	陸上部	指導員
2	バレーボール部	指導員
3	吹奏楽部	指導員
4	南関中学校	校長
5	南関中学校	教頭
6	南関中学校	教諭（陸上部顧問）
7	南関中学校	教諭（バレーボール部顧問）
8	南関中学校	教諭（吹奏楽部顧問）
9	玉名教育事務所	指導主事
10	南関町教育委員会	教育課長補佐
11	南関町教育委員会	教育課 主査

イ 地域部活動指導者会議の概要

■第1回会議

期日 令和3年4月27日（火）午後6時から

場所 南関中学校 会議室

議題 （1）自己紹介
（2）事業説明

■第2回会議

期日 令和3年6月29日（火）午後6時から

場所 南関中学校 会議室

議題 （1）傷害保険加入について
（2）謝礼の支払いについて
（3）中体連の今後について
（4）部活動の方針について
（5）生徒アンケートの結果について

■第3回会議

期日 令和3年8月31日（火）午後6時から

場所 南関中学校 会議室

議題 （1）研修会の実施について
（2）広報誌での周知・啓発について
（3）保護者向けアンケートについて
（4）各部の取組状況報告について

■第4回会議

期日 令和3年10月26日（火）午後6時から

場所 南関中学校 会議室

議題 （1）各部からの実施状況報告について
（2）アンケートの公開について（生徒用、教職員用、外部指導者用）
（3）保護者向けアンケート（案）について
（4）オンライン研修会の報告について

■第5回会議

期日 令和3年12月21日（火）午後6時から

場所 南関中学校 会議室

- 議題 (1) 各部からの実施状況報告について
(2) アンケートの公開について（保護者用）
(3) 研修会（1月26日）の開催について

■第6回会議

期日 令和4年2月29日（火）午後6時から

場所 南関中学校 会議室

- 議題 (1) 各部からの実施状況報告について
(2) 令和3年度事業成果報告について
(3) 令和4年度事業の取組について



③ 地域部活動指導者の派遣

■陸上部及びバレーボール部の派遣実績

(単位：時間)

種目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
陸上部	5.0	0	11.5	14.0	2.0	0	0	6.0	4.0	6.0	0	48.5
バレーボール部	9.0	16.5	17.0	13.5	3.0	0	11.5	19.5	14.0	14.0	0	118.0

新型コロナウイルス感染症の第5波及び第6波などにより、熊本県は「まん延防止等重点措置」等の対策を講じた。そのため部活動が禁止となる時期もあったが、地域指導者は、上記のような実績を残し、部活動に従事してもらった。

④研修会の開催

ア 適切な指導に必要な人材研修の開催

演題 学校管理化から社会体育移行した場合の留意点

講師 日本女子体育大学 体育学部スポーツ科学科 高橋 修一 教授

日時 令和3年10月22日（金） 15時30分～17時00分

対象 南関中学校教職員、部活動外部指導者、A-life なんかん関係者
近隣市町村総合型スポーツクラブ関係者、町教育委員会など

方法 オンライン研修（ZOOM使用）

※研修会場を設置せず、各自端末から受講した。

※南関中学校は、会議室でスクリーンに投影した。



イ スポーツ指導者認定制度に係る研修

演題 南関中学校における部活動の地域移行推進について

講師 久留米大学 人間健康学部 行實 鉄平 准教授

日時 令和4年1月26日(水) 15時00分～16時30分

対象 南関中学校教職員、部活動外部指導者、A-life なんかん関係者
近隣市町村総合型スポーツクラブ関係者、町教育委員会など

場所 南関中学校会議室



⑤ 広報啓発

町の広報誌「翠の風9月号」に地域部活動に関する周知記事を掲載した。
掲載内容は次のとおりである。

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革への取組

～令和5年度から段階的に休日の部活動の地域移行が実施されます～

文部科学省では、生徒にとって望ましい部活動の環境を整備する観点から、部活動ガイドラインを策定し、部活動の適正化を推進しています。この中で、「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」ことが指摘されています。この指摘を踏まえつつ、学校の働き方改革を考慮した更なる「部活動改革」の推進し、「学校と地域が協働・融合」した部活動の実現を目指しています。

また、休日の部活動に対する生徒の希望にこたえるため、部活動機会を確保するために「休日において部活動を地域の活動として実施できる環境整備」が重要です。

そのためには、休日の指導等を担う地域人材の確保が必要となります。また、地域部活動の指導者が、生徒のスポーツや文化への興味関心の向上、体力・技能の向上に資する指導ができるよう取り組んでいくことも大切です。

来る令和5年度以降本格的に開始される「部活動改革」ですが、南関中学校では、本年度において「休日の地域部活動を推進する実践校」として文部科学省からの補助を受け、実施しています。全国でも拠点校が設けられ、実践研究が進められています。

このように「部活動改革」は、各地域での実践研究を行い、段階的に進んでいきます。南関中学校が拠点校として、成果や課題を見極め、地域人材の協力を得て、望ましい部活動の実現や学校の働き方改革を通じ、学校教育の資質向上へとつながるように取り組んでいきます。

⑥保護者への説明会開催

日時 令和3年4月16日（金）14時30分

場所 南関中学校 体育館

※PTA総会時に保護者向けに事業を説明した。

内容

- ア 運営団体等の確立（A-life なんかんや町文化協会との連携）
- イ 指導者等の人材確保、業務内容の確立
- ウ 学校での部活動体制の整備、教師、指導者などを整理した指導体制を確立
- エ 費用負担の整理（自治体・保護者）
- オ 生徒の参加方法の検討（送迎の必要性等）
- カ 生徒、教師、部活動指導者、保護者へのアンケートの実施

⑦アンケート調査の実施

■生徒、教職員、部活動外部指導者対象

期間 令和3年6月16日から18日まで

内容 部活動について

方法 オンライン方式（Google forms）学校用タブレット

■保護者対象

期間 令和3年11月

内容 部活動について

方法 緊急時等保護者連絡用「熊本県安心安全メール」

メールからGoogle formsへ導き回答、QRコード付きプリント配付

2 運営体制

(1) 運営主体（団体）の属性（事業内容）

運営主体（団体）は、町教育委員会である。指導者の派遣等は、総合型地域スポーツクラブ（NPO法人A-life なんかん）が行い、密に連携を取りながら事業に取り組んでいる。

今後、部活動が地域移行した際は、運営主体（団体）を同スポーツクラブに引き継ぐ見込みである。

■NPO法人A-life なんかんの事業内容

- ①スポーツクラブ・スクール事業
- ②人材育成派遣事業
- ③イベント事業
- ④調査研究連携事業
- ⑤地域振興協創事業
- ⑥ヘルスケア事業
- ⑦スポーツ等支援事業
- ⑧施設運営管理事業
- ⑨目的達成の為の事業

(2) 課題や今後の見通し

同法人が中学校部活動の地域移行の運営主体となる場合、予算の確保が必須である。現在、同法人が、小学校部活動の社会体育事業を運営している。保護者負担が年間 4,000 円であり、事業不足分は、町費で補填している。

町の財政には限界があり、中学校部活動が地域移行した場合、財源確保のためにも、国などの財政支援が必要である。

3 指導体制

(1) 指導者の基礎情報（種目・競技歴・指導歴・資格・謝金・経歴）

種目	競技歴	指導歴	資格	謝金	経歴
バレーボール部	35年	21年	無し	1,600円/h	全国大会出場、県優勝5回
陸上部	11年	6年	無し	1,600円/h	特記事項無し

(2) 確保方法

事業に取り組む以前から、一部の中学校部活動と連携していた総合型地域スポーツクラブとともに、指導者の確保に努めている。本事業の2部活動については、専門知識を有する指導者を確保できているが、全部活動が地域移行した際に、専門知識を有する指導者を探すのが課題である。指導者派遣について、町総合型地域スポーツクラブとの、今以上の連携が求められる。

また、地元企業などの従業員等には、各種目の経験者があり、総合型地域スポーツクラブへの登録を誘導したい。しかし、企業等の勤務時間中もあり、企業が協力しやすくなるような制度の整備・発展が課題である。

(3) 指導者の指導力向上等の取組

ア 適切な指導に必要な人材研修の開催

演題 学校管理化から社会体育移行した場合の留意点

講師 日本女子体育大学 体育学部スポーツ科学科 高橋 修一 教授

日時 令和3年10月22日（金） 15時30分～17時00分

イ スポーツ指導者認定制度に係る研修

演題 南関中学校における部活動の地域移行推進について

講師 久留米大学 人間健康学部 行實 鉄平 准教授

日時 令和4年1月26日（水） 15時00分～16時30分

4 活動場所

(1) 主な活動場所

部活動種目	利用施設
軟式野球	南関中学校グラウンド（野球場）
陸上競技	南関中学校グラウンド（トラック）
ソフトテニス	農村広場テニスコート
バドミントン	南関中学校体育館（2階）
バレーボール	南関中学校体育館（2階）
バスケットボール	南関中学校体育館（2階）
卓球	南関中学校体育館（1階）
美術	南関中学校美術室
吹奏楽	南関中学校音楽室

(2) 活動場所の確保方法

地域移行した際も、現状の学校体育施設での活動が可能である。しかし、施設の施錠をどうするかが課題である。学校と運営団体が連携し、鍵の管理について、休日に教員が出勤しないで済むような仕組みづくりが必要である。

また、保護者向けアンケート調査結果によると、現状の学校体育施設での部活動を望む声も少なくない。

Ⅲ 実践研究の成果

1 成果（アンケート結果）

アンケート調査結果 i 教職員の部、ii 生徒の部、iii 外部指導者の部の抜粋
調査概要

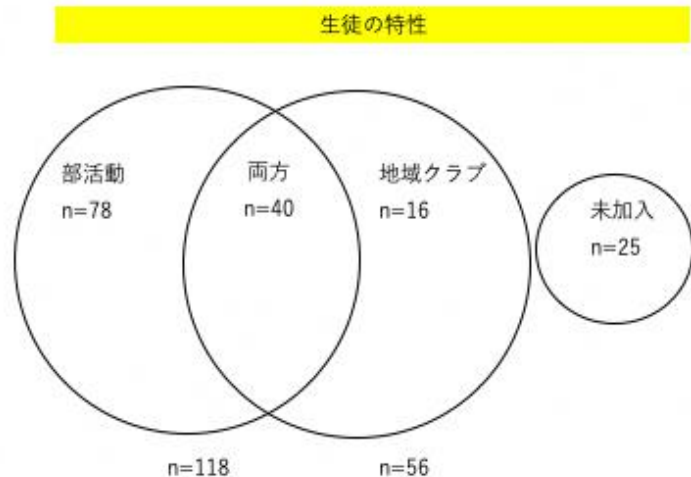
1. 調査対象者: 生徒(159名)、教職員(18名)、外部指導者(10名)
2. 調査時期・方法: 令和3年6月16日から18日で web 調査を実施
3. 調査内容: 以下参照

生徒					目的	指導者			
対象	全員	部活動生徒	クラブ生徒	所属していない		対象	教員	外部指導者	
特性	学年 性別				現状	経験	経験年数	年齢	
所属	所属状況	なんかんっ子クラブ					専門と指導の一致	指導歴	
		部活、クラブ、両方、無					運動部か文化部	運動部か文化部	
	所属経緯		所属部活動	所属クラブ			所属していない理由	部員人数	
状況	活動状況		加入動機	加入動機				指導日数(平日)	
			加入目的	加入目的				指導時間(平日)	
			活動日数(平日)	活動日数(平日)				朝練習の有無	
			活動時間(平日)	活動時間(平日)				指導日数(土日)	
			活動日数(土日)	活動日数(土日)				指導時間(土日)	
	活動時間(土日)	活動時間(土日)		大会遠征日数					
	参加頻度	参加頻度		大会遠征参加頻度					
意識	活動意識		参加熱意	参加熱意				指導頻度	指導頻度
			得たこと	得たこと				指導希望	ストレスやプレッシャーなど
			満足度	満足度				指導希望の理由	休日指導希望の理由
			理想の活動日数(平日)	理想の活動日数(平日)				休日指導希望	休日指導希望
			理想の活動時間(平日)	理想の活動時間(平日)		やりがい	やりがい		
	理想の活動日数(土日)	理想の活動日数(土日)		部活動指導目標	部活動指導目標				
	理想の活動時間(土日)	理想の活動時間(土日)		部活動問題点	部活動問題点				
課題	問題点		所属部活の問題点	所属クラブの問題点		重要な問題	重要な問題		
			悩み事	悩み事		指導上の悩み	指導上の悩み		
人員数		人員の必要性			外部指導者	外部指導者軽減効果	人員が足りているか		
						外部指導者活用利点	待遇		
						外部指導者活用課題	外部指導者活用課題		
自由記載	意見など				自由記載	全般的な働き方改革に対する意見など	全般的な意見など		

<結果概要(生徒)>

表1 生徒の特性について

項目	度数	%
学年(n=159)		
1年生	67	42.1
2年生	52	32.7
3年生	40	25.2
性別(n=159)		
男性	77	48.4
女性	82	51.6
「なんかんっ子クラブ」加入(n=159)		
加入していた	32	20.1
加入していない	95	59.7
加入していたが途中で辞めた	9	5.7
クラブを知らない	23	14.5
活動種別(n=159)		
部活動のみ	78	52.2
地域クラブのみ	16	10.1
部活動と地域クラブの両方	40	22.0
どちらにも所属していない	25	15.7



<結果概要(生徒)>

表5 生徒の部活動に対する取り組み状況

【部活動】 n=118		
項目	度数	%
熱意		
とても熱心に取り組んでいる	32	27.1
熱心に取り組んでいる	79	66.9
あまり熱心に取り組んでいない	7	5.9
満足度		
とても満足している	52	44.1
やや満足している	58	49.2
やや不満である	6	5.1
とても不満である	2	1.7
指導者必要性		
項目	度数	%
顧問のみがよい	7	5.9
指導者のみがよい	15	12.7
顧問と指導者の複数名がよい	78	66.1
顧問がいて、かつ指導者を増やしたほうがよい	18	15.3

表8 生徒が感じている問題点と悩み

部活動(n=118)		
部活動での問題点(複数回答)		
12.特になし	90	76.3
2.活動場所が狭い	13	11.0
3.練習が厳しすぎる	4	3.4
4.練習がやさしすぎる	4	3.4
1.活動時間が短すぎる	3	2.5
5.グラウンドの状況が悪い	3	2.5
7.指導者等の意識が低すぎる(指導力不足)	2	1.7
10.費用がかかりすぎる	2	1.7
8.指導者等の意識が高すぎる(指導力過熱)	1	0.8
9.部員が少ない	1	0.8
11.練習試合や合同練習等他学校と交流の機会が少ない。	1	0.8
6.人間関係がよくない	0	0.0
悩み(複数回答)		
17.特になし	47	39.8
1.疲れがたまる	39	33.1
3.勉強や遊ぶ時間がない	27	22.9
2.休日が少なすぎる	15	12.7
4.上達しない	12	10.2
9.ケガ	9	7.6
8.人間関係がよくない	8	6.8
5.活動場所が狭い	7	5.9
7.指導者の指導が不十分	4	3.4
11.練習時間が短すぎる	3	2.5
6.指導者の意識が高すぎる	2	1.7
10.練習がやさしすぎる	2	1.7
12.練習内容が厳しすぎる	2	1.7
14.生徒の意見が反映されない	2	1.7
13.部員が少ない	1	0.8
15.費用がかかりすぎる	1	0.8
16.保護者の理解がない	1	0.8

*項目前の番号は変数番号

表7 生徒の加入目的とその効果

部活動(n=118)		
入部目的(複数回答)	度数	%
1.うまくなりたい	79	66.9
2.楽しみたい	61	51.7
4.小学生からやっている	36	30.5
3.体を鍛えたい	33	28.0
6.なんとなく	15	12.7
7.選手で活躍したい	14	11.9
5.人間的に成長したい	13	11.0
11.進学に有利	9	7.6
8.充実した生活	8	6.8
9.友達を作りたい	6	5.1
12.仕方なく	4	3.4
10.人間的に成長したい	2	1.7
便益(複数回答)		
1.体力がついてきた	93	78.8
2.先輩・後輩ができた	61	51.7
4.技術が向上してきた	59	50.0
3.友達ができた	43	36.4
6.精神力や責任感がついていた	34	28.8
5.先生と仲良くなった	21	17.8
7.いきいきと生活できている	16	13.6
8.協調性がついてきた	13	11.0
9.特になし	3	2.5

*項目前の番号は変数番号

表9 生徒の意見(自由記述)

3年生になって勉強が分からない事が多くなった。
グラウンドの整備
コーチからの指摘を増やしてほしい。
この近くにハンドボールのクラブチームはないのか
とても陸上は楽しいです。でも平日と休日の時間を増やしてほしいです。お願いします
わかからないという回答が欲しい
顧問とコーチが厳しすぎる気がする
大会などの経験を積める場が少ない
男子バスケ部を作ってほしい
部活が終わり余った時間で自主練習したくても帰らされる
部活のうまい人には熱心に指導するのにもうまくない人には熱心には指導してないと思う
またそこそこうまくない人の何のために練習してるか聞いてほしい

<結果概要(教員)>

表1 1 教員の指導する理由や問題・悩み (n=18)

項目	度数	%	項目	度数	%
部活動指導する理由 (複数回答)			悩み (複数回答)		
1.生徒が好き	2	11.1	1.公務が忙しくて指導できない	10	55.6
2.指導することが楽しい	2	11.1	2.教材研究の妨げとなっている	10	55.6
3.生徒の成長がうれしい	2	11.1	3.自由時間の確保	6	33.3
4.指導している種目・活動が好き	1	5.6	4.保護者の期待が高すぎる	2	11.1
指導目標 (複数回答)			5.予算不足	2	11.1
1.協調性や社会性を身につけさせたい	12	66.7	6.生徒のやる気不足、考え方がつかめない	2	11.1
3.精神力や責任感を育てたい	10	55.6	7.自分の経済的な負担	2	11.1
2.種目に親しむ態度を育てたい	7	38.9	8.部員数が多い。または少ない	2	11.1
6.明るく仲間と楽しませたい	6	33.3	13.専門的な指導ができない	2	11.1
4.技術力を向上させたい	6	33.3	9.施設や設備が不足している	1	5.6
7.体力を向上させたい	5	27.8	10.生徒のケガなど	1	5.6
5.よい成績を収めさせたい	4	22.2	11.専門としている種目での指導力不足	1	5.6
部活動問題 (複数回答)			12.生徒の塾などとの関連	1	5.6
1.活動時間が長すぎる	5	27.8	14.保護者が無理解・無関心	1	5.6
4.保護者の理解がない	4	22.2	15.人間関係がよくない	1	5.6
3.保護者の期待が高すぎる	2	11.1	メリット (複数回答)		
2.費用がかかりすぎる	1	5.6	3.専門的な指導体制が充実	10	55.6
5.練習量を極端に減らすことは難しい	1	5.6	2.教職員の指導力不足が解消	7	38.9
6.費用がかかりすぎる	1	5.6	4.校務多忙が解消	5	27.8
7.他の業務を圧迫している	1	5.6	1.自由時間が確保	4	22.2
8.教師が担当すること	1	5.6	5.生徒への柔軟な対応	2	11.1
9.専門的な指導ができない	1	5.6			
11.練習内容がやさしすぎる	1	5.6			
10.厳しい指導に耐えられない	0	0.0			
最大の問題点 (複数回答)					
2.活動時間が長すぎる	4	22.2			
3.保護者の理解がない	4	22.2			
1.保護者の期待が高すぎる	1	5.6			

表1 2 教員の休日の指導希望

項目	度数	%
指導希望 (n=18)		
したい	1	5.6
どちらかというとしたい	6	33.3
どちらかというとしたくない	7	38.9
したくない	4	22.2
休日指導希望(n=15)		
指導したい	7	46.7
どちらかというとしたい	2	13.3
どちらかというとしたくない	6	40.0
やりがい(n=15)		
やりがいを感ずる	3	20.0
やりがいは感じない	11	73.3
まったくやりがいは感じない	1	6.7
指導していない教員の指導希望(n=3)		
どちらかというとしたい	2	66.7
どちらかというとしたくない	1	33.3

表13 教員の部活動に対する意見

ずっとボランティアでお願いすることになってしまうが、それでいいのか。専門とする-先生が異動されてきたときのコーチとの兼ね合いはどうするのか。
外部指導者との連携をうまくとる
教師と同じ視点で生徒に接することが大切である。技術の指導だけでなく、人間性の育成など、共通理解が必要な場面があると思う。
常に来てもらえるわけではないこと。
生徒への教育的配慮など、教育公務員に準ずる研修等がまだ、充実していないこと
生徒指導が難しくなる
地域指導員の方に来ていただいているが、仕事の関係もあり、休日の練習に来られていないのが現状である。
土日の練習を外部指導者のみで行うことが望ましいが、学校施設を利用する際、開錠や施錠、事故が起きた時の対応等、解決しなければならない課題は山積しています。この状況を解決しない限り、外部指導者に任せることができない現状があります。

<結果概要(外部指導者)>

表16 外部指導者の指導における問題や悩み (n=10)

項目	度数	%	項目	度数	%
休日指導の理由 (複数回答)			部活動問題 (複数回答)		
1.生徒の成長がうれしい	10	100.0	1.活動時間が短すぎる	3	30.0
3.指導している種目・活動が好き	8	80.0	4.活動場所が狭い	2	20.0
2.生徒が好き	6	60.0	5.保護者の理解がない	2	20.0
4.学校が好き	2	20.0	2.全体指導と個別指導等を考えると時間が足りない	1	10.0
5.指導することが楽しい	2	20.0	3.保護者の期待が高すぎる	1	10.0
6.責任問題	2	20.0	重要な問題 時間が短すぎる	5	
7.経済的負担	1	10.0	プレッシャー (複数回答)		
部活動目標 (複数回答)			1.部員数が減少すること	6	60.0
1.社会性や協調性を身につけさせたい	8	80.0	3.試合や大会等での結果 (がよくない)	4	40.0
2.スポーツや芸術等に親しむ態度を育てたい	8	80.0	2.保護者等からの不満 (が増えること)	1	10.0
4.技術力を向上させたい	8	80.0	悩み (複数回答)		
7.スポーツや芸術等の魅力をさらに広げたい	8	80.0	4.自分の指導力不足を感じる	6	60.0
3.精神力や責任感を育みたい	7	70.0	5.部員数が多いまたは少ない	5	50.0
5.仲間と楽しませたい	6	60.0	3.生徒の塾などとの関連	3	30.0
6.体を鍛え、活力ある生活ができるように	6	60.0	7.生徒のやる気不足	2	20.0
			8.無気力	2	20.0
			9.保護者が無関心、無理解	2	20.0
			1.予算が足りない	1	10.0
			2.仕事などが忙しくて指導できない	1	10.0
			6.保護者の期待が高すぎる	1	10.0

表17 外部指導者の取り組み状況 (n=10)

項目	度数	%
やりがい		
とてもやりがいを感じる	7	70.0
無回答	3	30.0
指導者充足		
十分足りている	4	40.0
足りている	3	30.0
足りていない	3	30.0
指導者待遇		
ほぼ満足	6	60.0
かなり不満あり	1	10.0
どちらとも言えない	3	30.0
部活動課題		
ある	4	40.0
ない	6	60.0

表18 待遇意見 (自由記述)

指導に対して待遇を考えた事はごく最近です。熊本市内の外部指導者と情報交換すると南関町の待遇はすごくよいです。他市町村の場合、交通費は自費の場合が多い。
自分自身の楽しみと健康のためにやらせてもらっているので別に不満はないです。
他の仕事を入れずにこの時間にあてるほど貰えない。

表19 意見 (自由記述)

課題は社会性を習得してほしいことです。人に挨拶する。欠席をする場合は、連絡を必ず入れる。事前にわかっている場合には、前日に連絡する。何か困った場合は相談する。当たり前のことですが、子供達は「報告連絡相談」ができていない状態。部活動を行う上で社会性を身につけるかどうかは、子供達の将来に大きく影響すると思います。今の活動でもこの社会性が身につけていないことが大変マイナスに働いています。社会性がある子供かなってもらうのが最終的な目標です。
部活動とA-lifeの連携を希望します。
練習場所の拡大。休日は大牟田の400mトラックでよりレースに近い環境で練習させたいと思う。それにより、タータンの感覚をつかんでほしいし、走りやすさもあるので、月一回くらいは、400mのグラウンドで練習させたいです。そのためには保護者の送迎等の協力が不可欠なので、協力を仰ぎたい。

<結果まとめ>

1 生徒の実態

→部活動に熱心に取り組み、問題点や悩みを抱えている様子もないことから、満足度の高い活動を行える環境にあることが窺える。

2 教員の実態

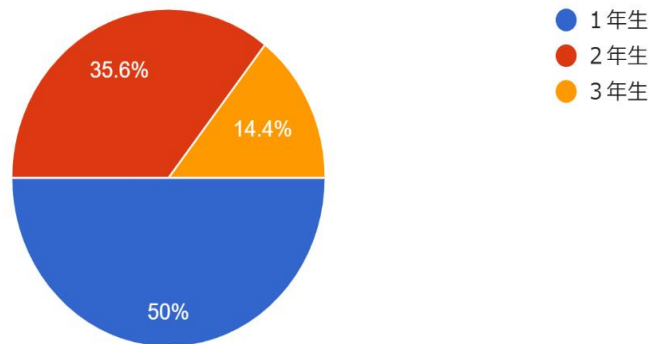
→専門(種目)でない部活動であっても、献身的に生徒たちの部活動環境を支えている姿を窺うことができる。ゆえに、**部活動に対する問題点や悩みとして数多く挙げられている内容は切実であるものといえよう**。また、外部指導者の存在はありがたいものであると捉えている一方で、負担軽減には未だ繋がっていない(実感を持っていない)ことも確認できた。

3 外部指導者の実態

→やりがいを持って、休日の活動に積極的に参加している姿を窺うことができる。一方で、活動時間の確保や自身の指導力不足といった問題や悩みを抱えていることも明らかとなった。

iv 保護者の部アンケート調査結果抜粋
回答数：90 件

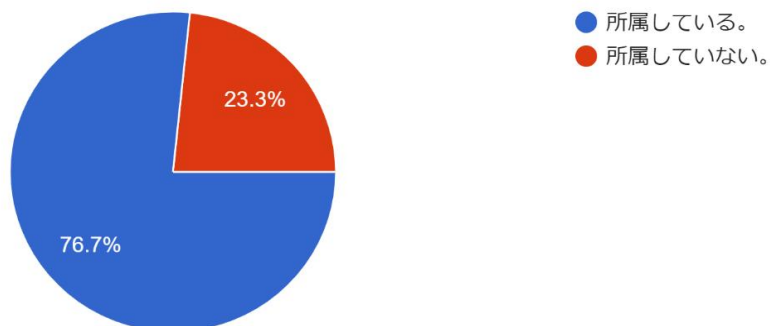
子どもさんの学年は？
90 件の回答



問1 子どもさんの学年は？

1年生 45、2年生 32、3年生 13 であった。

部活動に所属していますか？
90 件の回答



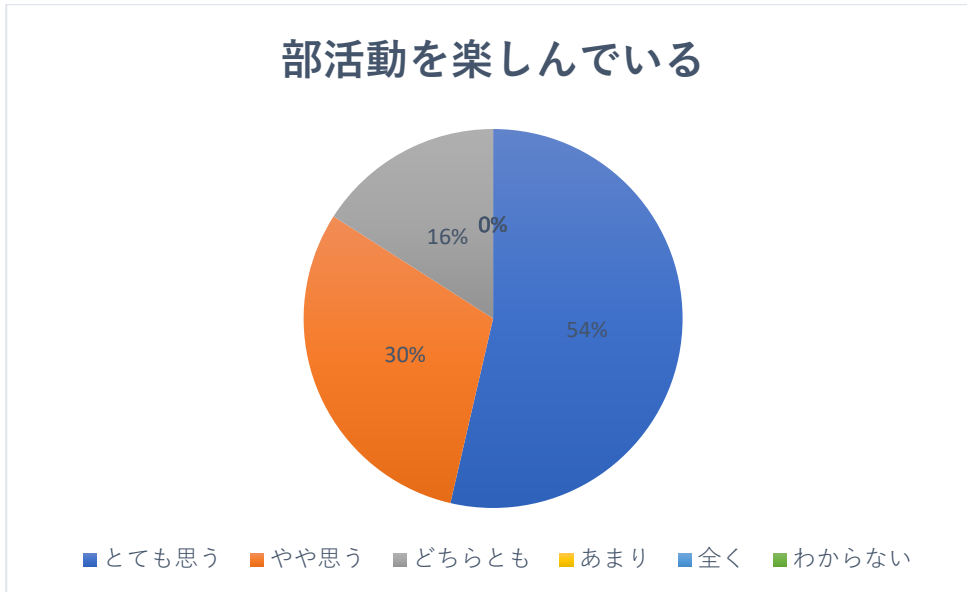
問2 部活動に所属しているか？

所属している 69 (76.7%)、所属していない 21 (23.3%) であった。4分の3は部活動に所属しているようだ。なお、生徒へのアンケートの結果では、159人中118人が部活動に加入していると回答しており、その割合は74.2%で、保護者も生徒もほぼ同じ割合になっている。

保護者から見た子どもさんについて

問3 各項目において、保護者の気持ちに一番近いものは？

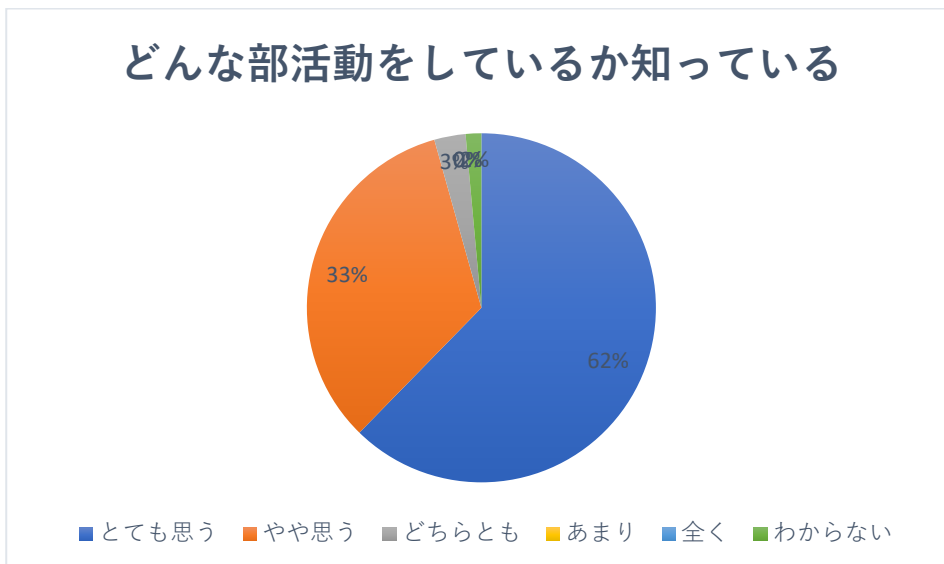
回答数は69件であった。以下の表記は、とても思う＝「とても」、やや思う＝「やや」、どちらともいえない＝「どちらとも」、あまり思わない＝「あまり」、全く思わない＝「全く」、わからない＝「わからない」とする。



(1) 部活動を楽しんでいる

とても37、やや21、どちらとも11

子どもたちが「部活動を楽しんでいる」と感じている保護者は84%を占めた。

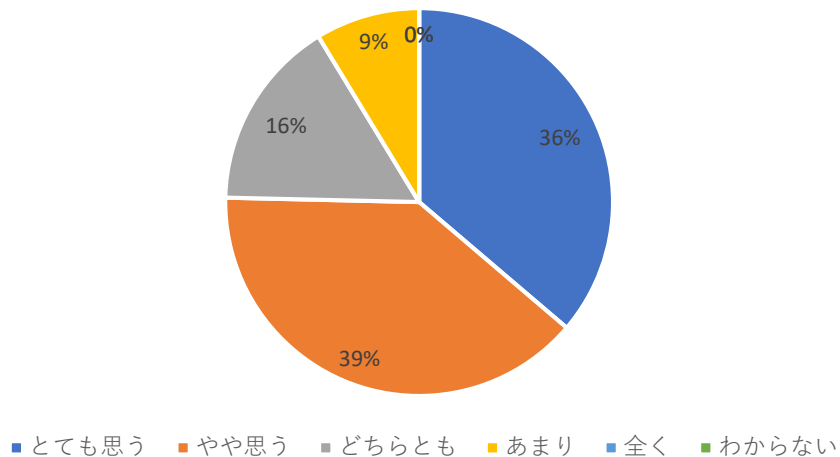


(2) どんな部活動をしているか知っている

とても43、やや23、どちらとも2、わからない1

保護者がどんな部活動をしているかを知っている割合は95.7%。ほとんどの保護者が子どもたちの様子を把握しているようである。

休養・睡眠は十分である

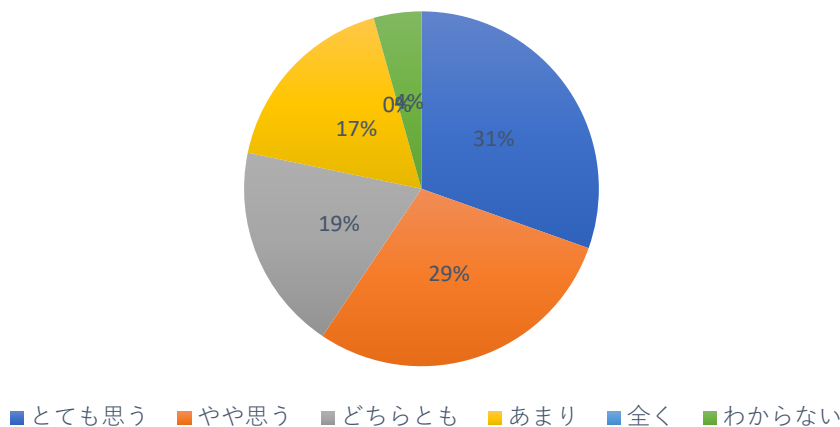


(3) 休養・睡眠は十分である

とても 25、やや 27、どちらとも 11、あまり 6

休養・睡眠が十分であるとの回答が 75.4%。生徒へのアンケートでは、「平日・休日ともに活動している」との回答が多かった。また、「悩みはないか？」に「疲れ」40 や「休日が少ない」15 の回答があったので、今回保護者に確認した。なお、「思わない」が 6 あるが、これは、部活動やクラブ、そして勉強などと普段から忙しい子どもの姿を見ているからかもしれない。

顧問（先生）の指導は適切である

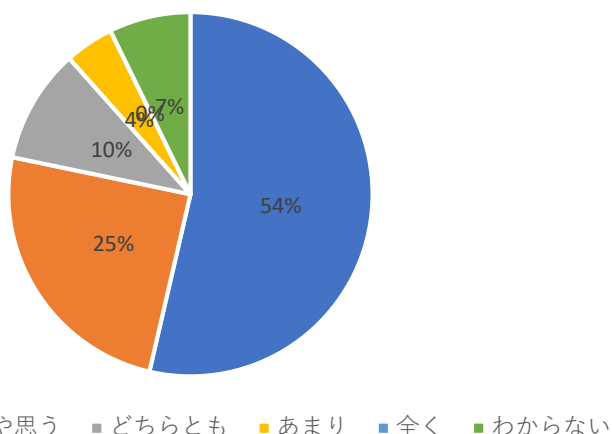


(4) 顧問（先生）の指導は適切である

とても 21、やや 20、どちらとも 13、あまり 12、わからない 3

「適切」が 59.4%だが、「思わない」も 17.4%の回答となっている。先生へのアンケートの結果から、専門種目以外の部活動に携わる立場にあるのが 80%であった。また、指導状況のアンケート結果でも、約 30%が「指導できていない」との回答で、この辺りが教職員の働き方改革への要因とも結びつくようである。

外部指導者（コーチ）の指導は適切である

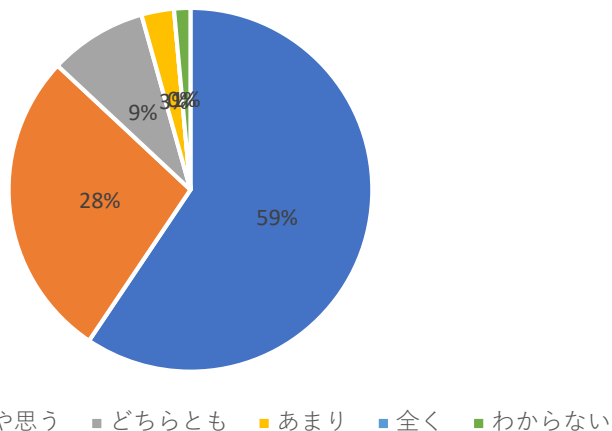


(5) 外部指導者（コーチ）の指導は適切である

とても 37、やや 17、どちらとも 7、あまり 3、わからない 5

「適切」が 78.3%を占めた。指導者アンケートでは「やりがいをもって部活動指導に取り組んでいる」と指導者全員が回答していた。また、「あまり思わない」が 3 (4.3%) であることから、外部指導者は保護者から評価されているといえる。やはり、自ら進んで指導していることもあり、その心構えや態度は子どもたちの手本となっている。

平日の日数は適切である

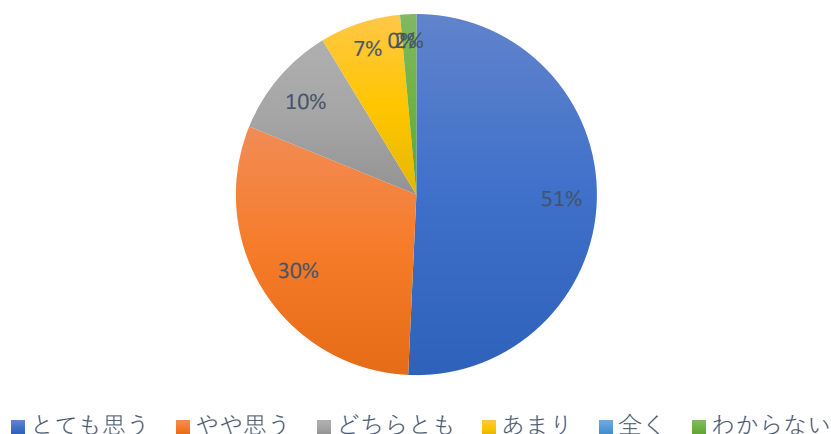


(6) 平日の日数は適切である

とても 41、やや 19、どちらとも 6、あまり 2、わからない 1

「適切」が 87.0%。南関中学校運動部活動の指針及び南関中学校部活動実施規定では、「平日 1 日以上の日数」と定めており、今回のアンケートの結果からもそれが妥当であるといえる。

平日の時間は適切である

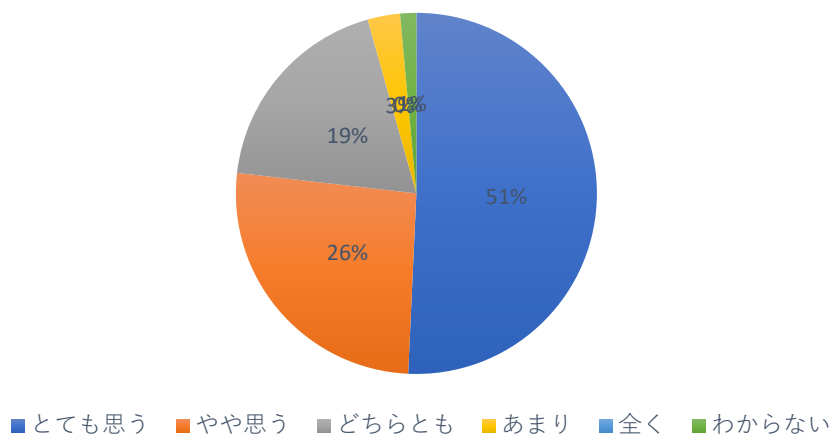


(7) 平日の時間は適切である

とても 35、やや 21、どちらとも 7、あまり 5、わからない 1

「適切」が 81.2%。前問と同様、指針や規定では「2 時間程度」と定めており、適切であるといえる。生徒へのアンケートでは、「1 時間から 3 時間未満」が理想と 96.6%を占めた。このことから「あまり思わない」5 (7.2%) は、もう少し長くさせたい意見ではないかと推測する。

休日の日数は適切である

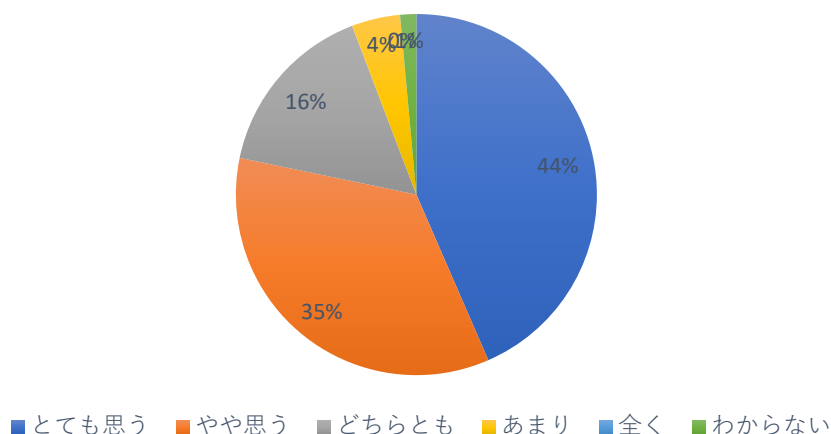


(8) 休日の日数は適切である

とても 35、やや 18、どちらとも 13、あまり 2、わからない 1

「適切」が 76.8%。休日についても指針や規定では「1 日以上の休養日」としている。生徒アンケートでも「いずれか 1 日」が 72.9%を占め、続いて「しない」が 16.9%。保護者の結果からは適切であると判断できる。

休日の時間は適切である



(9) 休日の時間は適切である

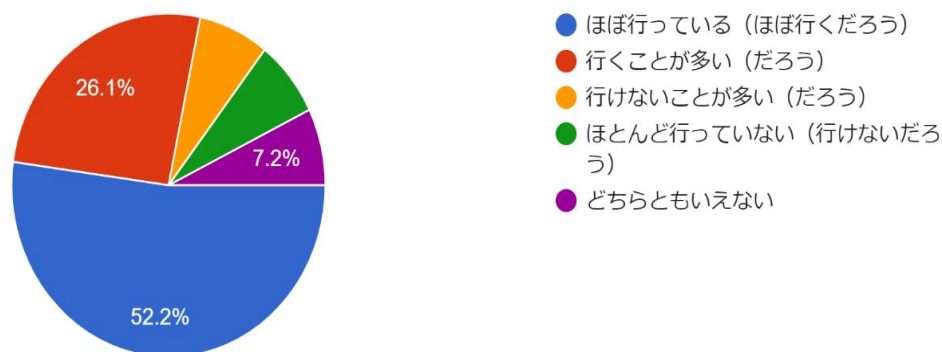
とても 30、やや 24、どちらとも 11、あまり 3、わからない 1

「適切」が 78.3%。指針や規定では、「長くとも 3 時間程度」と示している。生徒アンケートの理想の活動時間では、「2 時間から 3 時間まで」49.2%、「1 時間から 2 時間未満」22%、「3 時間から 4 時間未満」13.6%であった。

コロナ禍で試合・発表などの応援が制限されていますが、**規制がなくなり自由に応援・観覧できるとしたら**

子どもさんの試合や発表の場などに応援・観覧などに？

69 件の回答



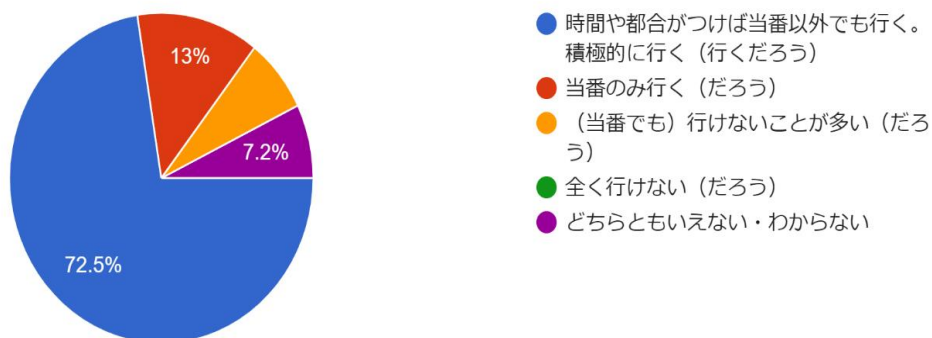
問 4 試合や発表の場の応援・観戦は？

ほぼ行く 36、行くことが多い 18、行けないことが多い 5、行けない 5、どちらともいえない 5

「行く」78.3%に対し「行けない」も 14.5%。応援や観戦が子どもたちの力になることは言うまでもない。仕事などで、行きたくても行けない場合もあるが、できる限り子どもたちの求めに応じていただきたい。

学校以外の場所での活動があるとき、送迎などは？

69 件の回答



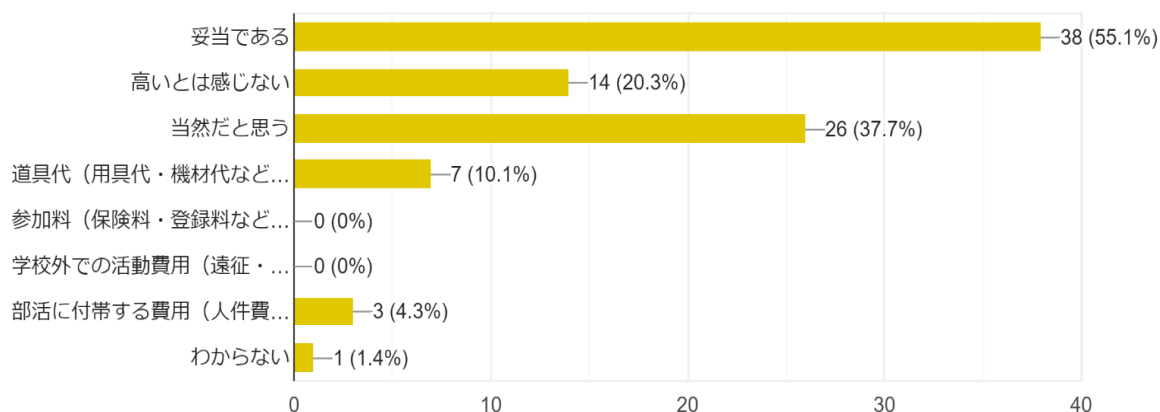
問 5 学校以外の場所への送迎

積極的に行く 50、当番のみ行く 9、行けないことが多い 5、全く行けない 0、どちらともいえない・わからない 5

「行くことが多い」が 85.5%。子どもの送迎については、保護者が携わらなければならないとの認識がうかがえた。現在でも保護者の送迎が必要だが、部活動が地域へ移行した場合も保護者なしでは活動できない。特に「当番以外でも行く」との回答が 72.5%を占めているのは頼もしい限りである。前問のとおり保護者が行けないとして、関係者や所属部の保護者などが応援・観戦してくれれば士気が高まるであろう。

部活動を行ううえでは、道具代や参加料などの費用...います。その費用負担について？（複数回答可）

69 件の回答



問 6 部活動に関する費用負担について（複数回答可）

妥当である 38、高いとは感じない 14、当然だと思う 26、道具代などが高い 7、参加料などが高い 0、活動費用が高い 0、人件費などが高い 3、わからない 1

部活動をするうえでの費用負担については、「必要な費用である」が 78 件。道具代については、加入する部活動によって差があるようだ。今後、地域部活動へと移行するにあたり、人件費等が生じてくる可能性がある。

自由記述 1 部活動が地域に移行することについての思いや意見などがあれば

- ・文化系の活動が増えることを期待する
- ・活動場所は自転車を通える範囲で
- ・送迎や月謝などが心配
- ・学校での部活動のままだが良い
- ・地域に移行してもこれまで通り、学校での活動を希望する
- ・学校での活動は時間が限られているので、有意義な活動にできる
- ・顧問の先生の負担が大きく、地域へ移行すべきである
- ・その部活動未経験の先生が顧問をされるより、その部活で活躍されていた指導者に見てもらえる方が力になる
- ・学校での部活動体制がなくなると、学校部活動に伴う友人関係や思い出などがなくなり、さみしく思う
- ・先生方の負担軽減になるのはいいことだ
- ・外部コーチの負担にならないように保護者も協力していくべきだ
- ・よい指導者（質も人数も）の確保はなかなか難しいのでは
- ・有能なコーチ（コーチのレベル）が所属すればよい
- ・新しい現在の考え方を持つ（若い）コーチに任せたい

自由記述 2 部活動に求めるものは？

- ・体力強化。体力づくり
- ・他者への配慮。先輩後輩、先生や指導者など礼儀を考え行動すること
- ・地域の仲間と目標に向かって活動すること。団結する喜び。チームワーク。文武両道の実践
- ・結果も大切だが、過程を重視してもらいたい
- ・体力。忍耐。体力向上。社会性、協調性、努力すること。仲間達と高め合う空間
- ・あいさつ、礼儀、精神面等の成長。心身の成長
- ・自分への向上心を高める場づくり。礼儀、仲間、上下関係。道具を大切に使うこと
- ・子供達が自由に楽しくできればいい。子供が楽しく活動できること
- ・みんなで同じ方向を向いて練習すること
- ・多感な時期を孤立せずに関わり合いに打ち込み健全に育ててほしい
- ・スポーツの楽しさをおぼえ、そのスポーツを好きになり、生涯を豊かにしてくれる
- ・自分で考え、自分をみつめ、工夫すること
- ・子どもがしたいものが選択できること
- ・学校での部活動を続けてほしい
- ・クラブチームに所属しているが、親の送迎等負担は大変なもの
- ・送迎ができかねる家庭の子供さんのスポーツ振興の場を残してほしい

最後に

本年度は、南関中学校で地域部活動移行についての実践研究を行っている。その中で、アンケート調査を「生徒」「教職員」「指導者」と実施し、今回は保護者の回答を得ることができた。

今回は、保護者の気持ちを把握したい観点から、保護者がどのように感じるかを尋ねた。全体的に前向きな意見が大半であった。

地域部活動に移行する目的の一つが「先生の働き方改革」である。休日の部活動は、先生から外部指導者へ移行することになる。南関中学校で指導するコーチ（外部指導者）に対しては、今回のアンケート結果からも保護者は信頼している。コーチたちの指導に対す

る思い入れや一生懸命さも普段から見ることができ、当然の結果である。

部活動の活動日と活動時間について、平日と休日を尋ねた。南関中学校運動部活動の指針及び南関中学校部活動実施規定では、「平日1日以上、休養日・2時間程度の活動時間」、「休日は1日以上、休養日・3時間程度」と示されている。活動日・活動時間とも平日・休日とも適切であるとの回答がいずれも75%以上を占めた。

それから、普段の応援や観戦の頻度と送迎について尋ねた。これは、地域へ移行した場合、必然的に保護者の送迎が必要であると見込まれているからである。現在の状況はコロナ禍のため規制されているが、応援・観戦へは78.3%が行く。行けないは14.5%で、休日であっても保護者が仕事等ならばいたしかたない。送迎についても「当番以外でも行く」が7割を超えていた。

また、地域に移行するにあたり、費用負担の発生も予想される。学習塾やクラブ活動などと同じで、道具代のほか、指導者に対する費用、保険料などが必要だと思われる。

最後に2問の自由記述を設けた。地域に移行する思いや意見では、前向きな言葉が多く、中でも「保護者も協力していくべき」という答えは、これからの地域部活動への心構えだといえる。ここでも外部指導者への期待度が高い意見が多かった。

部活動に求めるものでは、人間の基本的要素（礼儀、あいさつ、協調性など）が多く寄せられた。生徒アンケートでの「部活動によって何かを得たか？」では、体力・技術のほか、人に関すること（友達、先輩後輩、先生）が272件あげられ、保護者が求めている要素を少なくとも一つ以上は習得できているようだ。

今回の保護者アンケートの結果から、現在実施している取組が功を奏しているようだ。生徒の51.7%がアンケートでは部活動を「楽しみたい」と答えている。さらに「人間的に成長したい」と12.5%が思っている。そのような部活動とするためにも、保護者との信頼関係が築かれた地域の指導者を活用し、「楽しく」「成長できる」地域部活動へと繋いでいかなければならない。生徒にとって望ましい持続可能な部活動と学校の働き方改革の両立を実現するために取り組んでいく。

2 横展開しうるノウハウ等

実践研究の1年目で、事業説明会や指導者の派遣、アンケート調査、研修会など事業を実践してきたが、他校に横展開できるノウハウ等の把握は、できていない状況である。2年目の事業で、引き続き検討していきたい。

また、本事業ではないが、町では小学校体育のICTを活用した授業の実践研究を実施した。教諭と運動が苦手な児童や意欲的ではない児童に対し、東京女子体育大学と連携し、ICTを活用した授業を推進した。種目に関しては、「マット」を選択し、タブレットの活用、指導者の派遣等、ノウハウを活用できる可能性があるため、参考までに紹介する。

■ ICTを活用した授業

モデル校 南関第四小学校 2学年 15名

単 元 体育（機械器具遊び、マット遊び）

授業時間 6時間（10月12日、14日、18日、19日、21日、25日）



3 実践研究の結果判明した課題

(1) 課題の種類

- ① 指導場所の問題
- ② 兼職兼業の問題
- ③ 部活動方針のニーズについて
- ④ 保護者意識と地域移行時期について
- ⑤ 予算の問題
- ⑥ 責任の問題
- ⑦ 指導方針について
- ⑧ 指導者確保の仕組みについて
- ⑨ 教員の意識について
- ⑩ 中体連組織について

(2) 課題の詳細および方向性や提言

① 指導場所の問題

学校管理下に限らず、指導場所の施設問題がある。特に学校内には部外者は侵入できないもので、指導者に学校の鍵を渡すことは厳しい現状がある。本町は、文化庁の地域部活動推進事業（文化部）にも取り組んでいるが、学校のセキュリティーをどうするかという問題は、重要課題になっている。

鍵の管理について、本年度は地域指導者に鍵を渡さずに、学校の教職員が交代で対応している。しかし、働き方改革もある中で、教職員に施設をお任せする行為はナンセンスである。鍵自体を保管する「鍵BOX」等の設置を検討している。

② 兼職兼業の問題

教員の兼職兼業を認め、「部活動指導する教員」と「部活動指導しない教員」の2パターンが出てくると思われる。長年、部活動は学校管理下で行われてきた経緯もあり、教員の兼職兼業に対する保護者の要望や教員同士の同調圧力等が心配である。兼職兼業が多数派にならないような周知が必要となる。

本年度事業では、休日に顧問教員と地域指導者の両名で指導する日も多くあった。次年度事業では、これを見直し、町としては、原則兼職兼業を認めない姿勢を取れないかという方向性で検討したい。しかし、現場の教員の話をおくと、「平日の指導をしているのだから、その成果発表の場である大会に参加したい」という声も少なくない。“原則”とすること自体ハードルが高いようだ。様々な選択肢を残しつつ、上記課題でも記載したが、指導を望まない教員が顧問に従事しない環境を構築するように努めたい。

また、次年度事業では、休日に教員が大会等に引率する場合の兼職兼業の申請手続きを行い、謝礼を支払うようにしたい。だが、県や町では、教員を地域部活動指導者として兼職兼業を認めるという制度ができていない状況にあるようだ。学校の働き方改革が叫ばれる中、平日の超過勤務が多い状況で、前例のない兼職兼業を認めることができないように感じられる。

教員の兼職兼業という選択肢があるのであれば、早急な制度化を国に要望する。

③ 部活動方針のニーズについて

生徒の部活動に対するニーズにどう応えていくか。たくさんの競技種目へのニーズに加えて、競技種目ごとの「取り組む姿勢」についてのニーズがある。例えば、同じ競技でも、試合に勝つため競技力を高めたい生徒と、体を動かし、レクリエーション的に放課後を楽しみたい生徒がいる。

町では、小学校社会体育事業「なんかんっ子クラブ」を町総合型地域スポーツクラブに委託している。現在は、小学生限定で取り組みを行っているが、中学校運動部活動のレクリエーション志向の生徒へのニーズにも応えるべく、次年度中学生の枠組みを設けることを検討している。

④ 保護者意識と地域移行時期について

「休日の”段階的な”地域移行」を進める中で、先駆的に進める自治体（校区）のみが保護者からの費用負担を求めることは、近隣市町村と比較し、公平でないため、同時期に移行を進めないと理解を得るのが困難である。

保護者の費用負担については、ある程度広域で、同時期に変革を進める必要がある。今年度保護者向けに事業説明を実施したが、保護者には、長年築かれてきた「部活動は学校が行うもの」という意識がある。その中で、費用負担の問題は、とても慎重で丁寧な説明が必要になる。

また、“段階的な”という言葉が保護者の混乱を招くようだ。国のスケジュールを明確にしてもらいたい。例えば令和5年度から“段階的に”実施し、令和8年度には“全面移行する”といったような説明ができるようスケジュールを組み立ててほしい。

⑤ 予算の問題

地域移行の実現には、指導者謝金、旅費、保険料など、お金が必要になる。本年度は、事業費の予算限度額（約100万円）で、一つの部活動に地域指導者を一人配置し、補償した。しかし、実情は1部活動に2指導者、1顧問教員（兼職兼業の場合）の計3人分費用が必要な場合がある。休日のみ仮定しても、費用は毎月約1万円となる。これを保護者負担とする場合、高額となり、経済的理由等により部活動に参加できない生徒が生まれてくることを認識していただきたい。

本年度は補助金で一部対応できたが、国などからの補助金がなければ、対応が困難となる。次年度に実施予定の保護者向けアンケートでは、費用負担の許容度について調査し、対応していきたい。費用のことについて、家庭の経済格差がある中で、どのような基準で経済支援策を講じるのか、早急に定めていただく必要があるのではないかと。

⑥ 責任の問題

生徒がケガをした場合、指導者の責任になるのは重すぎる。また、身体的なケガのみでなく、指導に伴う精神的な心のキズを負わせてしまい、生徒が不登校になった場合など責任はどうするのか。保護者が複数生徒の送迎している中、事故になった場合どうするか。誰が責任を負うのか。現存のスポーツ保険では対応できない場合もある。

顧問教員と指導者とは意見交換し内容を共有している。事故等が発生していないことは幸いであるが、新聞等で騒がれるような事件・事故等には対応できない。全国的に部活動の地域移行が決まり、指導者への責任も増加することから、全国共通の課題である「指導者への保険」への需要を賄うスポーツ保険制度を望む。令和5年度に向け、指導者が安心できる保険を紹介できるようになると、学校は地域移行に取り組みやすくなる。

⑦ 指導方針について

休日の週1回のみでの指導では指導者と生徒との信頼関係を築くのが困難である。また、平日の教員の指導方針と休日の指導者の指導方針を綿密に打ち合わせ、生徒の状況を共有していないと、指導方針の違い等により、生徒が混乱することもある。

本町では、平日（学校管理下）の部活動の際も、地域指導者が指導したこともあり、生徒との関係は良好であった。休日に限らず、将来的には平日部活動についても地域移行することを鑑み、平日、休日ともに指導できる指導者を派遣する仕組みが必要である。

また、年6回（2ヵ月に1回）地域部活動指導者会議を開催し、顧問教員と地域指導者の意思疎通を図った。教員との意見交換をすると、事業名にある「休日」に限らず、「平日」の1日でも地域指導者を活用してもらえると助かるという声が多かった。

⑧ 指導者確保の仕組みについて

自治体ごとに、指導者派遣の仕組み（指導者バンク設置）を構築する労力及び予算が課題である。本町では、平成28年度に小学校部活動の社会体育移行を背景に、指導者バンクや町独自の認定スポーツ指導者制度を設置している。コロナ禍前までは、国の補助金を活用し、指導者の研修会受講を要件に町で指導者認定を行ってきた。しかし、小規模の自治体では、町単独予算での研修会企画やマンパワー不足、コロナ禍の影響もあり、指導者認定制度の維持が困難になっている。

指導者認定に係る研修や指導者バンク等の仕組みについては、保険の件（⑥）と同様に、全国共通の課題である。国や九州地区など、ある程度広域でのシステムができないか。小規模自治体ごとに制度化したり、研修会を企画したりするのは、予算ばかりが掛かり効率的ではない。特に研修会等は、コロナ禍でオンライン化が急速に進み、大人数が、自宅でも受講可能となった。指導者の受講に対する負担が減るような仕組みができるように望む。

また、指導者の確保について、町の企業と連携が図れないか検討をしたい。町の企業で働く人の中には、各スポーツの専門分野で活躍した方がおり、その掘り起しの取組をしたい。次年度は、企業向けのアンケートを実施し、町総合型地域スポーツクラブに登録してくような、足掛かりとしたい。

指導者確保の問題は、全国的なことであろう。企業で働く人に部活動指導をお願いする場合、勤務時間中となる場合もある。企業の人材活用の取組を加速させるような制度（指導者を派遣する企業への奨励金制度など）ができると指導者確保問題解決の糸口になる。

⑨ 中体連組織について

教員の減少の割合に対し、部活動数が減っていない現状が全国的にある。部活動が社会体育移行した場合、現状では、学校管理下の中体連大会に参加できないため、地域移行の妨げになっている。中体連の参加資格を学校単位から拡充緩和する取り組みが急務である。

⑩ 教員の意識について

本年度事業で、部活動改革に係る教員向けアンケートを実施した。現在は教員の献身的な支えで部活動は成り立っているが、「子供のため」という責任感の強さから、超過勤務が多くなり、大変な思いをしている教員も多いようだ。

「部活動改革」については、10年以上も前から協議されている中で、今も教員の負担軽減に繋がっていない現状がある。地域部活動移行に向けた早急なスケジュールを示す必要がある。

IV 地域移行を推進するための方策等

1 関係団体との円滑な地域移行推進体制への方策

関係団体との信頼関係を構築することが最も重要である。本事業に限らず、様々な業務において、顔を合わせて、意思疎通を図り、関わっていくべきである。

本町においては、総合型地域スポーツクラブに小学校社会体育事業「なんかんっ子クラブ」を委託している。加入している割合も20%を超えており、中学校でも同クラブに対する信頼が厚くなっている。

2 拠点校の取組や関係団体の協働を効果的に促進する支援策

人やモノは関係団体で準備できるものとする。しかし、カネについては、何を行うにしても必要である。この財源をいかにして準備し、継続的に支援できるかが最も重要であるが、一部を保護者負担とするにしても、国や自治体の経済支援対策が必須である。

3 課題の克服策

本町でも自主財源は限られたものである。そのために国や県などからの補助を受けてからでなければ、部活動の地域移行は厳しいものになる。また、保護者アンケート結果によると、教員の働き方改革や送迎等の理解も進んでいるように思われる。

しかし、費用負担については、長年無償であった経緯もあり、慎重で丁寧な説明が必要となる。なお、近隣の自治体に応じて不公平とならないように、費用負担を保護者に強いる場合は、同じタイミングで負担させることとすべきである。地域による格差が生まれないようにすることも、保護者からの理解を得るために必要なことである。

4 円滑な他地域への普及策

本事業に取り組んでいる市町村が、教育委員会や総合型地域スポーツクラブ向け研修会で先進事例発表等を開催する。少なくとも地域や県内では課題が共有でき、新しい手法やアイデアも生まれ、地域移行への手立てとなるのではないかと思う。

5 実践研究における活動実績や得られたデータ

前述の「成果」で示したアンケート調査結果のとおりである。